

第13回 番組審議会議事録概要

1. 開催日時

令和元年11月1日(金) 午後2時より

2. 開催場所

東京都港区台場2-4-8 フジテレビ本社 会議室

3. 出席者

委員長 : 吉岡忍

委員 : 藤原庸介、渡邊健一、池田哲雄、升本喜郎、砂川浩慶、宮崎美紀子
(欠席: 竹中尚人)

株式会社サテライト・サービス

加藤浩輔、岡崎洋三、福本洋、藤沼聡

株式会社フジテレビジョン

大辻健一郎、永竹里早、松永正隆

ディスカバリージャパン株式会社

杉本将、高山真詩

株式会社ジュピターテレコム

森井健策

株式会社スペースシャワーネットワーク

小林麻衣子、市橋創、市川雄規

CJ ENM Japan 株式会社

李東首、三澤法夫、渡邊玲未

4. 議題

- 1) 「動物なぜなに研究室」 ep1 トカゲ/カバ/クラゲ/ミツバチ
アニマルプラネットで放送
- 2) 「TOKYO SKA JAM "8"」 #2 ゲスト:Official 髭男dism
スペースシャワーTVで放送
- 3) 報告事項 「藤原委員退任の報告」

議題番組について各委員から次のような意見が出された。

■ 「動物なぜなに研究室」 ep1 アニマルプラネット

- ・放送時間30分が短く感じるほど興味深かった。CSらしい番組だった。
- ・字幕の訳もうまく、シャレも日本語に合った形に翻訳していた。ただ、字幕の位置が

下すぎて見にくかった。

- ・分かりやすく質が高い、放送する意義のある番組。日本ではこのレベルで制作するのは難しいと思う。欧米人の科学に対する尊敬の念とその歴史を感じた。
- ・元が英語のナレーションで理解させる番組なので、編集のテンポが速すぎた。字幕だけで理解するのは無理、字幕を読むことに一生懸命で肝心の映像に目がいかない。テロップの内容やフォントや数を工夫して、もっと見やすくすべき。
- ・生き物の深淵なる姿が非常に勉強になった。人間と他の生物が共存共栄していくには、この番組のように他の生物のことを知ることが重要。
- ・動物の生態を科学で解明するという紹介通りの素晴らしい番組。映像も工夫がされていて、ユーモラスな演出もよかった。
- ・子供に見せるには、吹き替え版のほうが良い。
- ・初めて見る映像ばかりで視覚に訴えるテレビならではの番組だった。大人向きの知的なエンターテインメント。ただ、子供は映像を見て怖がってしまっていた。
- ・テンポは速いが、アメリカのドキュメンタリーとしては普通。この様な作り方は日本の番組制作には影響を与えていない。日本には合わない部分があるのだろうが、日本の若い制作者は比較して議論してほしい。

※委員からの意見に対し制作サイドから（ディスカバリージャパン 高山真詩）

- ・「字幕だと分かりづらい、吹き替え版を作るべき」との指摘に対して
吹き替えも考えたが、生態を科学的に説明する番組なので耳で聴いても分かりづらい。文字情報なら正確に伝えられるので字幕版にした。ご指摘通り、字幕をもっと見やすくする余地はあるので検討する。
- ・「テンポが速すぎる」との指摘に対して
欧米のドキュメンタリーはテンポが速いものが多い。飽きさせない工夫のため。

■ 「TOKYO SKA JAM "8"」 スペースシャワーTV

- ・トークが長すぎた。音楽番組なのでもっと音楽が聞きたかった。
- ・音質がよかった、最新のCS放送は音質が良くなっている。
- ・映像は音楽専門チャンネルらしく素晴らしい。空気感も良い。
- ・今人気の2組をマッチングさせた凄い番組。アーティスト自身も楽しそう。
- ・ターゲットが分かりづらい。ゲストのファン向きならばファンは皆知っている地元ネタのトークが長すぎる。ファン向きでないのならゲストに関する説明が足りない。
- ・この2組のコラボの希少価値を説明できていないのがもったいなかった。また2組の衣装が似ていて区別しにくかった。
- ・知らないアーティストだったが楽しめた。知っていればもっと楽しめたはず。
- ・トークがセッション曲のフリになっていなかったのが残念。

- ・たまたまチャンネルを動かして見る、と言う番組ではなく好きな人が見るという作り。アーティストを良く知らない人が見たら、共鳴や感情移入はできないと思う。
- ・コラボが1曲なのは寂しかった。
- ・見ていて楽しかった。演奏シーンはテンポ、カメラワーク、編集もよかった。トークシーンに関してはもっと制作者の演出や仕込みが必要だと思う。

※委員からの意見に対し制作サイドから（スペースシャワーネットワーク 市橋 創）

- ・「説明が足りない」との指摘に対して
その通りなので受け止める。セッションの貴重さもアピールすべきだった。選曲理由などもっと説明したほうがよかった。
- ・「トークが長すぎる」との指摘に対して
ゲストの素の部分を見せたい、盛り上がった部分を見せたい、という制作者の思いからトークは長くなった。ファンはトークを求めているので、その方向性にしている。
- ・「ターゲットが分かりづらい」との指摘
ゲストは「初めてコラボする組み合わせ」を意識して選んでいる。20～30代の若い世代と、ホストのスカパラファン世代の両方がターゲットだった。
「衣装の被り」について
セッションの為に用意した意図的なもの。コラボ感を出す狙いがあった。

■報告事項 「藤原委員退任の報告」

藤原庸介委員が令和2年3月をもって審議委員を退任予定。後任に関しては現在選考中。

5, 次回予定

今回は令和2年4月中の開催を予定。議題対象番組は調整中。